

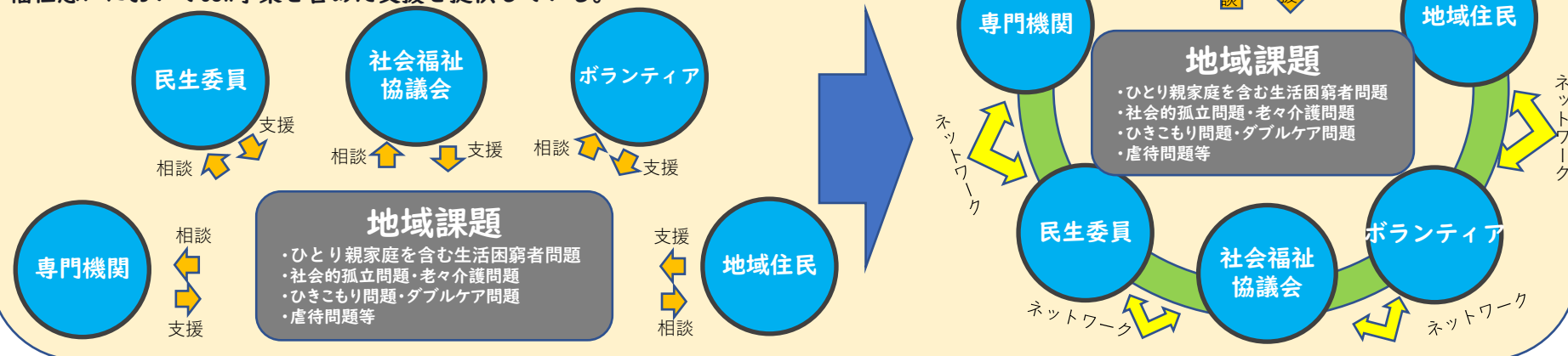
コミュニティソーシャルワーカー配置促進事業

①抱えていた課題

少子高齢化や核家族化、価値観やライフスタイルの多様化等により、地域住民同士の関係性が希薄となり、これまで地域社会が果たしてきた助け合いや支え合い等の機能低下が危惧されている。これまで分野別の福祉行政が中心となり取り組んできた「子育て世代・高齢者・障害者・障害児に対する支援」だけでは対応しきれない制度の狭間の問題の顕在化や生活課題の多様化・複雑化（ひとり親家庭を含む生活困窮者の問題、社会的孤立老老介護、ひきこもり、8050問題、ダブルケア、虐待等）がみられ、新たなニーズへの対応や課題解決へ向けた取り組みが求められている。

②課題に対する取組み

制度の狭間や複数の福祉課題を抱えるなど、既存の制度や福祉サービスだけでは対応が困難な生活課題に取り組むコミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）の配置が大阪府と市町村で進められてきた。現在、本市においては、生活圏域（各中学校圏域）に地域型包括支援センターを設置し（高齢者福祉法人等に委託）、全世代型・全対象型の福祉窓口においてCSW事業を含めた支援を提供している。



③目指している将来像

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現をめざしている。



④企業様に向けたメッセージ

新型コロナウイルス感染症の影響により、制度の狭間の問題や生活課題の多様化・複雑化といった福祉課題が見えにくくなっています。本市の地域型包括支援センターでは十分なアウトリーチを実施するだけの人手が確保できていない実態があります。こうしたことから、相談支援の機能強化のためのアウトリーチ等を行うための経費について、財政支援をいただければと考えております。